



東京にデザインを TOKYOxDESIGN

工藤和美

建築家／シーラカンス K&H
東洋大学理工学部建築学科教授

- ①都市は変わる
- ②街は楽しい、ハズ！
- ③デザインは有効
- ④これからの建築を変える！
- ⑤コンパクトな判断
- ⑥人を選ぶシステムを変える！
- ⑦足算から引算へのチャレンジ

高密な都市から過疎の村、そして島しょ部まで、東京は、日本の様々なまちのあり方を集めた縮図のような場所です。

① 都市は変わる

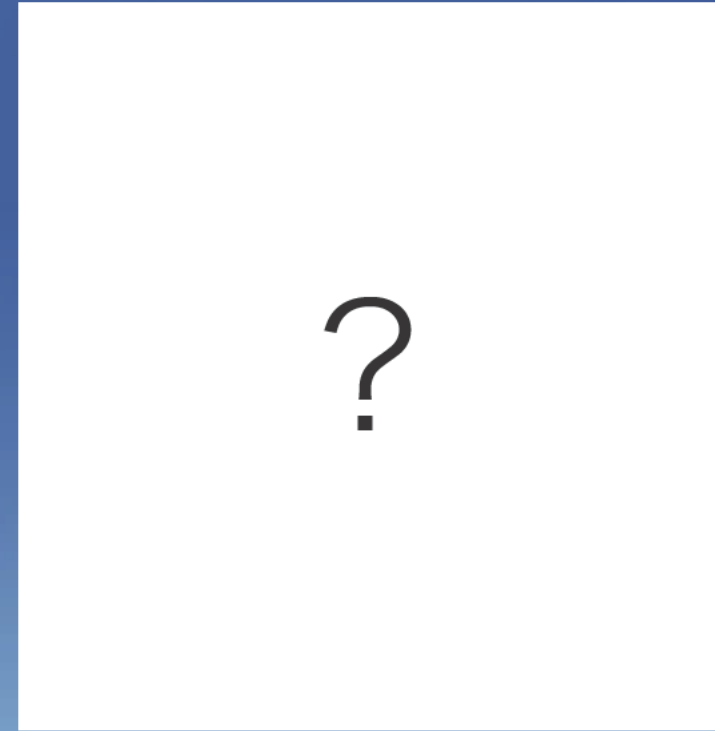
経済と効率優先からゆとりと楽しさと美しさへ



新宿, 1990



新宿, 2015



新宿, 2040



タイムズスクエア, 2005



タイムズスクエア, 2013

リーダーシップ



清溪川, 1990 年代



清溪川, 2006

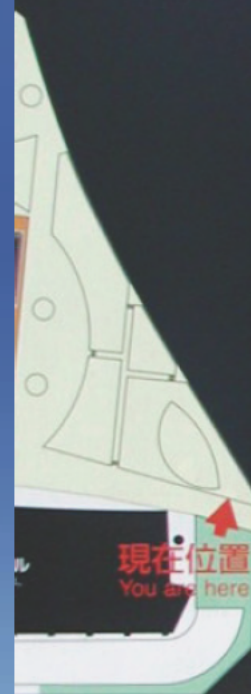
② 街は楽しい、ハズ！

目的外利用は Wellcome! な社会に

都市に蓄積された公開空地の利用

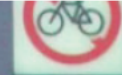
 まわりのひとに迷惑をかける行為禁止

平成14年11月
都市建指認 第62号



緑化
広場状空地
歴史的建築物の敷地

フッド 東京支店



自転車乗入禁止



バイク乗入禁止



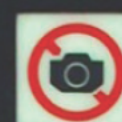
スケートボード
キックボード禁止



許可無販売行為禁止



寝転がり、寝込み、車座禁止



許可無撮影禁止



ゼッケン着用・旗竿持込禁止
集会行為禁止
シュプレヒコール禁止



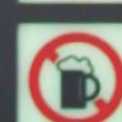
許可無イベント開催禁止



許可無配布行為禁止



喫煙禁止
(所定の場所以外)



飲酒禁止



ペットの散歩禁止

② - 1





中野 公開空地



東京都庁舎前広場

文化的な場に！



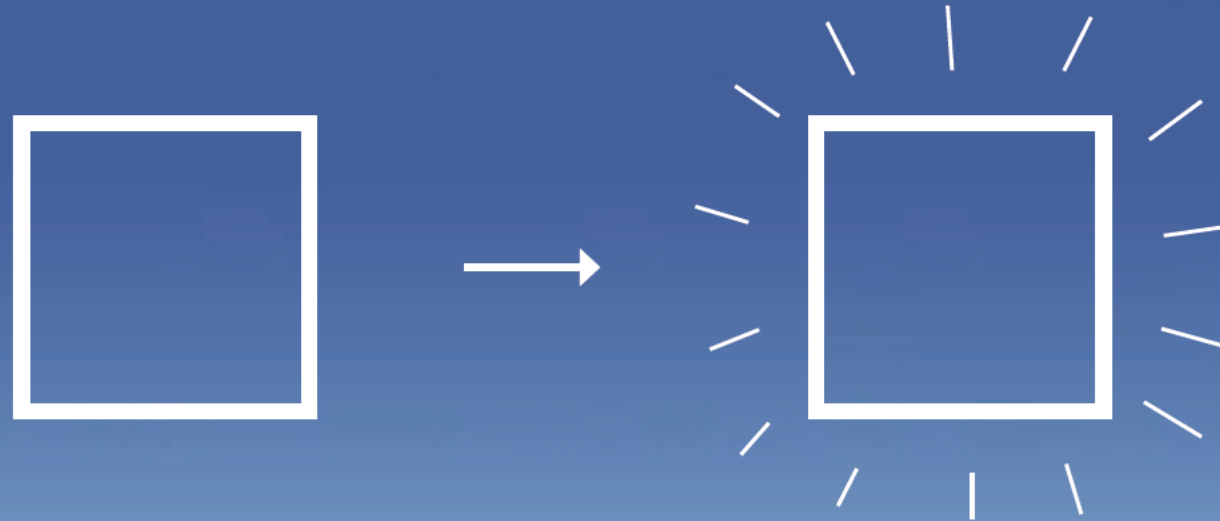
赤坂 公開空地



東京都庁舎ロビー

③ デザインは有効

様々な分野でデザイナーを登用する



同じモノが輝いて人々に喜びを与えることができる



デザイン = 物事の本質であり、美しさと心地よさである

人口 46 万人の金沢市 2つの公共施設にみる市民ニーズ

- ①美しく楽しく考え抜かれたデザインの公共施設は多くの人々に喜びを与える。
- ②アクティブシニアの日常の居場所ともなる。ウォーム&クール・シェア
- ③運営やメンテナンスに多くの市民が参加する。

金沢海みらい図書館 年間 80 万人が訪れる



金沢 21 世紀美術館 年間 150 万人が訪れる



金沢海みらい図書館

6000 個のペアリングガラスからの自然光で読書できるスペースは、消費エネルギー 1 / 2 の快適空間

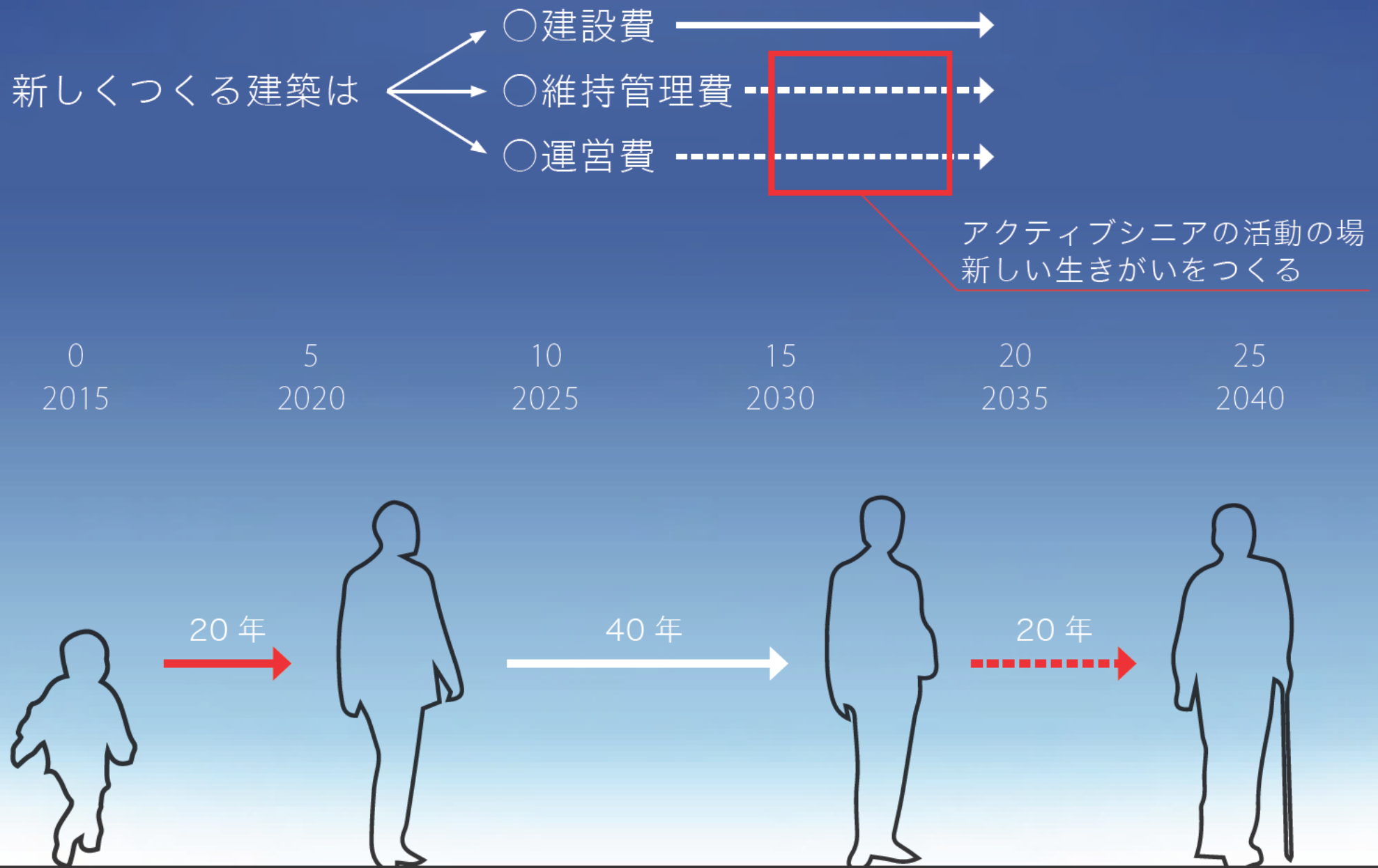


箱モノ

でも ケーキの箱は
楽しい、嬉しい！



④ これからの建築を変える！



学校は公共施設全体の 37% —————→ 地域施設としての活用
 ピープルマグネットとしての学校建築



千葉市立打瀬小学校「人口0からの出発」



富山市立芝園小学校・中学校「コンパクトシティの要として」



福岡市立博多小学校「中心市街地の空洞化を再生する」

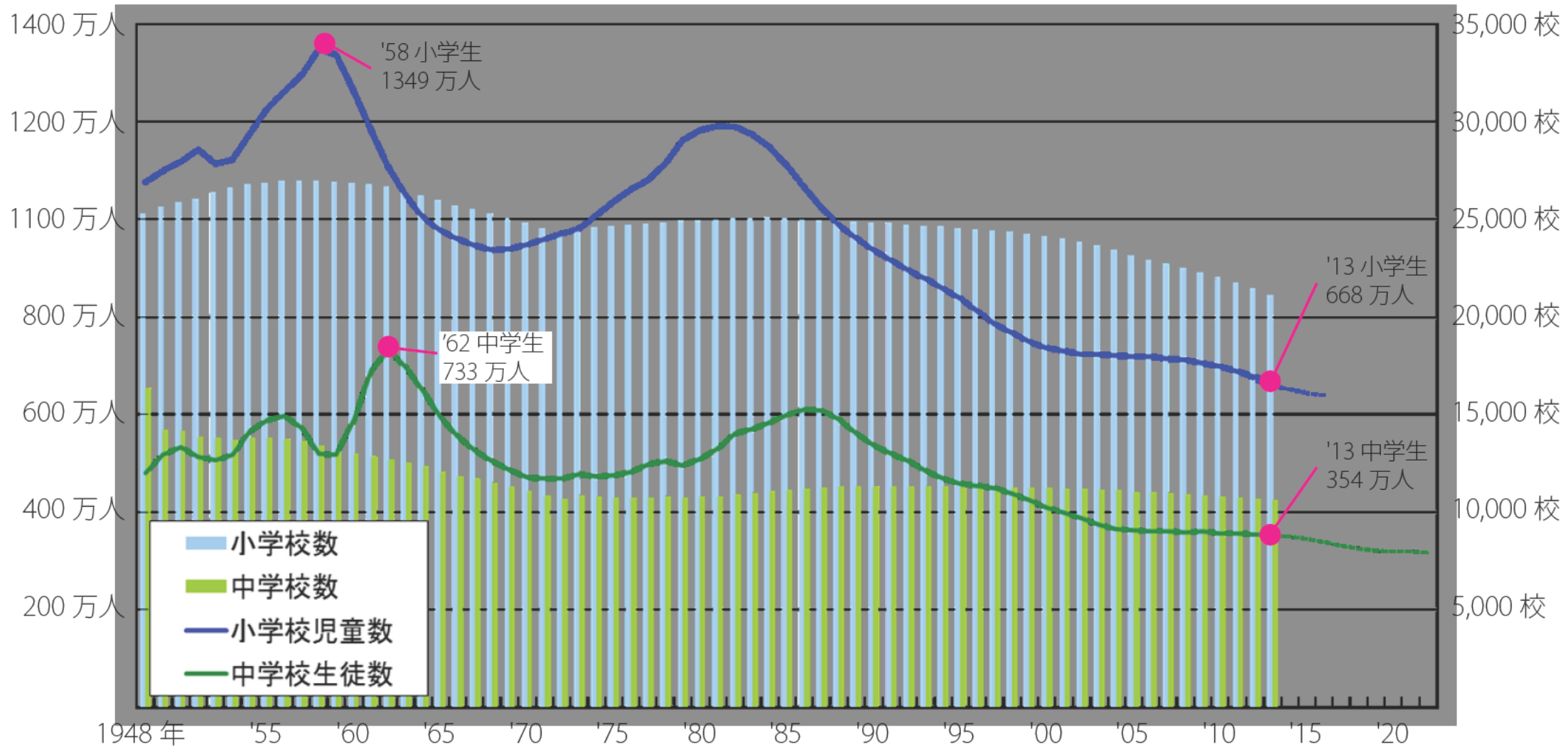


山鹿市立山鹿小学校「幸せなローカリティが輝く」

⑤ コンパクトな判断

縮小する社会に求められるスピード

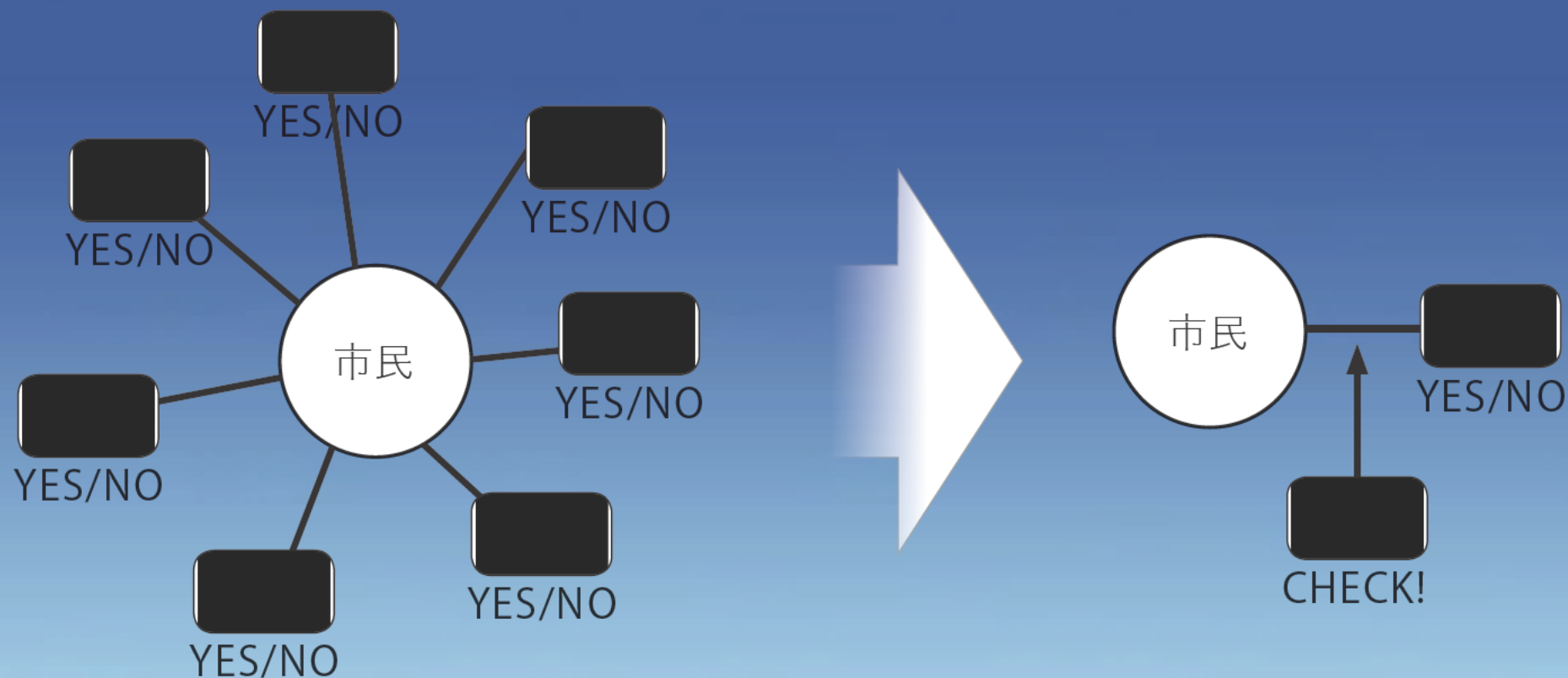
小中学校数・児童生徒数の推移 児童生徒数は第二次ベビーブーム世代が在籍した 1980～85 年を境に減少



※学校基本調査による

⑤ コンパクトな判断

多重行政システムからワンストップ・ダブルチェックシステムへ



1つの判断2回まで！ 人口減の中、行政サービスもコンパクトに！

⑥ 人を選ぶシステムを変える！

安かろう悪かろうの入札制度 → 質の高いデザインを得るための仕組み

- ◇会社規模や設計入札による評価
- ◇実績偏重・発注の集中
- ◇選定プロセスの複雑化
- ◇制度の硬直化・デザイナーの偏り



NY市の新たな仕組み

- ◇プロジェクト規模による仕分け
- ◇規模別による候補者のグルーピング
- ◇デザイナー選定プロセスの簡略化
- ◇2年ごとの更新



ブルームバーグ市政による改革後に選ばれた若手建築家によるNY市の公共施設例

⑦ 足算から引算へのチャレンジ

◇どのような分野でも、時を重ねる毎に複雑な制度が制定され、手続きは増大する一方。はたして今の時代に、こんなにたくさんの手続きが必要なのでしょうか。

◇制度を守るための手続きではなく、本質を捉える事が重要です。

◇ある企業の方は、添加物を加える事で食品を長持ちさせてきた時代に終止符を打ち、添加物を丁寧に引算しながら、オール無添加食品にチャレンジしています。

◇複雑で、時には相矛盾する制度をちょっと俯瞰しませんか。

きっと、モノの本質が見えてくるはずです。2020年の東京オリンピックへ向けて多くの人々の知恵を結集し、2040年に向けて着地させる。

◇まちづくりを通して、その先にすべきことは無駄な制度を一つ一つ消すこと。

◇その先の社会を支えて行く次の世代へ、私達はスリムな社会にすること。

◇多くの素晴らしい出来事を実現でき、正面から受け止める社会基盤の充実。

2040年は、それほど遠い先ではありません。小さな引算が希望につながります。



木のぬくもりに囲まれた学び舎／
コミュニティースクール

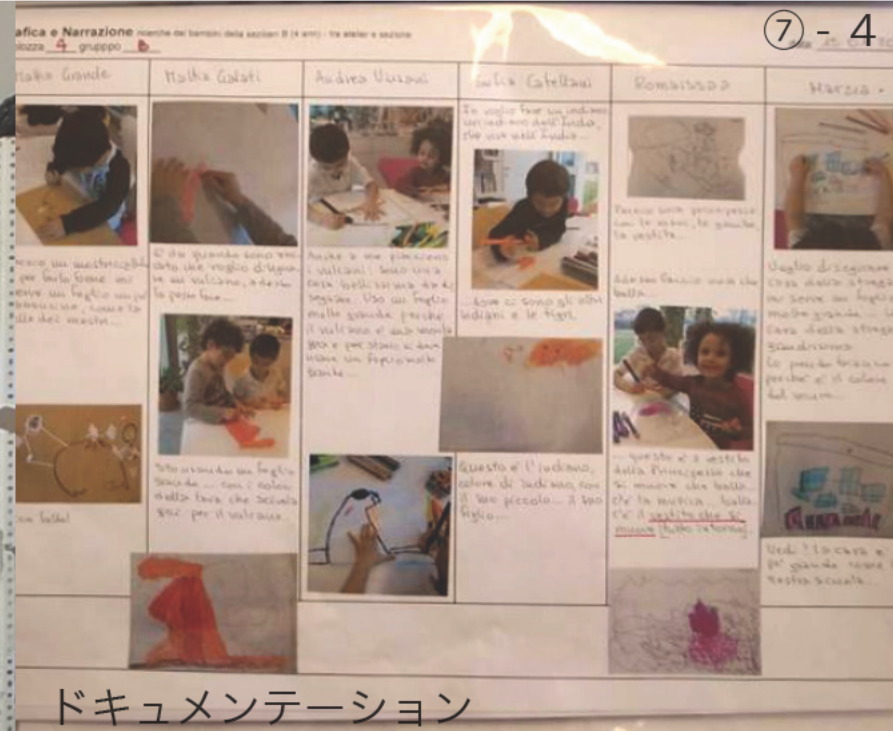




小さな池が デザインされ 憩いの場に



レミダ（クリエイティブ・リユースセンター）



ドキュメンテーション イタリア、レッジョ・エミリア市の 幼児教育は結果ではなくプロセス重視





産学官による e コラボ鶴ヶ島

開かれた議論の場で生まれた建築を住民が運営・維持メンテする。



ワークショップ



子供の環境学習の様子



金沢 21 世紀美術館での展示